

勝山御殿を西（青山方面）から望む



勝山御殿を知る

【勝山御殿の概要と特徴】

幕末、外国船が沿岸まで進入する中で海岸近くにあった長府の藩邸では襲撃の危険があったため、三方を山に囲まれ守りが固めやすい勝山の山間部の田倉に築城されたのが勝山御殿。着工から僅か5か月での急ごしらえであった。

当時の攻防は白兵戦から砲撃戦へ移っていたため土塁や砲台等を備えた西洋の稜堡敵特徴をもっていた。ただし、高石垣や横矢を配した縄張を持つ伝統的な日本式城郭の特徴もあわせもつ。

～幕末期、関門守護の拠点～

【城郭データ】

城郭名：勝山御殿跡（かつやまごてんあと）
 時代：文久3年（1863）～明治4年（1871）
 主な城主：毛利元周、毛利元敏
 主な遺構：石垣、土塁、表門跡、玄関跡ほか
 登山条件：県道247号安岡港長府線より市道を北上
 所在地：大字田倉（田倉御殿町北）

幕末、諸外国の侵攻から自領を守り抜くため病をおし難局に臨んだ長府藩13代藩主。

【長府毛利家略系図】



勝山御殿のあるところ～多重の面的防衛ライン

勝山御殿の築城と並行して各地に防衛施設が築かれた。その配置は海峡付近を最前面とし、防衛ラインを多重に巡らせ、本土決戦に備えたものとなっている。現在、幾つかの遺構が確認されている。



A. 勝山小学校南側に残っていた秋根土塁跡。県道工事に伴う山口県埋蔵文化財センターの発掘調査で発見された。



B. 西側響灘方面の射程を構える上げ山砲台。丘陵の南北（北ノ鼻、南ノ鼻）其々に台場が確認されている。（青山から）



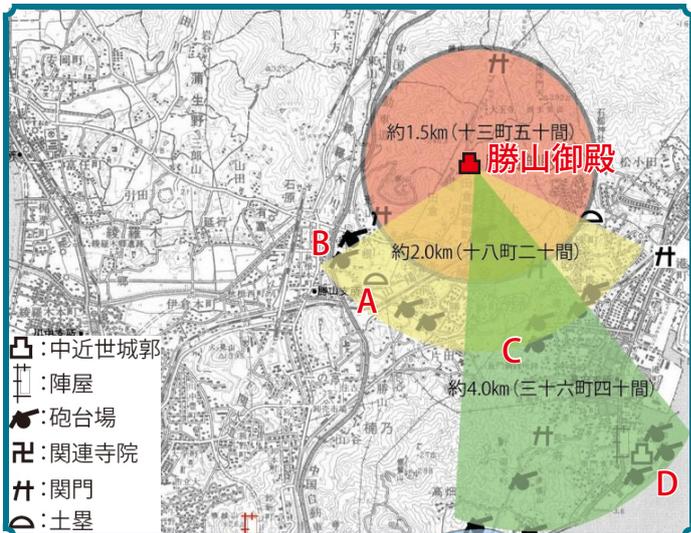
C. 勝山御殿が築城されるまで一時的に藩主が詰めた長府の寛苑寺。本庫裏は御殿の玄関を移築したもの。



D. 海峡を眼前に臨む長府に旧城と陣屋が存在した。幕末期には城跡に新たに砲台が築かれた。

【アクセス】

県道247号線（長安線）からバス停交差点（「勝山地区公園」道路標識あり）北上。差葉団地を通り過ぎた突き当り（公園駐車場あり）。



- ：中近世城郭
- ：陣屋
- ：砲台場
- 卍：関連寺院
- 卍：関門
- ：土塁

*上下段地図は勝山御殿跡現地案内ガイドブックより一部改変



*縄張り図、史料とも右が北



A: 大手口の西側には特徴的な凸型の張り出しがあり、横矢が掛けられていた。



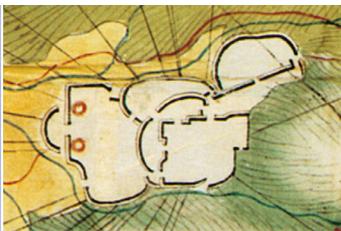
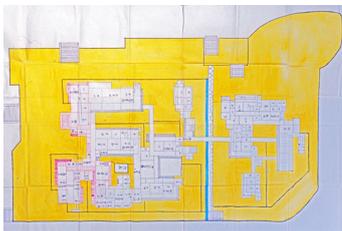
B: 二の丸は両脇に虎口を設ける。城壁は石垣と土塁で構成されている。



C: 本丸表門への虎口スロープ。威厳を保つ高石垣にも横矢が掛けられている。



D: 本丸の表と奥は水堀と石垣で区切られていたようである。



御殿指図 (平面図) から本丸には百を超える部屋があったことがわかる。
【勝山御殿本丸指図 (住吉神社所蔵)】

古絵図には現況と異なる縄張りが描かれ、設計段階の図面の可能性がある。
【長府藩勝山城周辺絵図 (京都大学附属図書館所蔵) 部分】

明治時代に測量された地図には勝山御殿の縄張りが詳細に描かれている。
【明治30年測量勝山周辺地図】

【勝山御殿の縄張り】

三方を山塊に囲まれ南に開く谷部に位置するため、前面の南方に向けて防御を固めている。全体縄張りは南北に延びる直線状で、奥行きがあり高層建物がないため、最深部の本丸が見通せない仕組み。最前面の三の丸が最も堅固で、石垣と土塁を組み合わせた奥行きのある城壘の上には砲座を設置。大手口と表門が直線で並ぶが、二ノ丸の城壘で間を塞ぎ進入を拒む。本丸正面縄張りは屈曲部が多用され側面射撃が可能な防衛壁となっている。

もっと勝山御殿を知りたい…

【参考となる資料】

- ・「山口県中世城館遺跡総合調査報告書 - 長門国編 -」(2017) 山口県教育委員会
- ・「勝山御殿跡 - 幕末に築城された近世最終期の城郭」(2010) 下関市教育委員会
- ・「勝山御殿跡 現地案内ガイドブック」下関市教育委員会
- ・「勝山御殿跡 調査成果報告書」(2018) 下関市教育委員会
- ・「勝山三山 登山ガイドマップ」(2018) 勝山三山を守る会

【参考となる場所など】

- ・勝山公民館：1階ロビーに模型あり。パンフレットも入手できます。
- ・勝山三山を守る会：勝山御殿を含め周辺三山の歴史文化や自然環境保全にも尽くされています。毎年イベントも開催。(事務局Tel: 083-256-0882 (原田方))
- ・下関市教育委員会文化財保護課：調査報告書のことなら。(Tel: 083-252-3867)



勝山公民館1階ロビーに展示されている勝山御殿本丸の模型。一度御覧ください。



2018年のお祭りの様子。勝山三山を守る会では毎年イベントを実施しています。